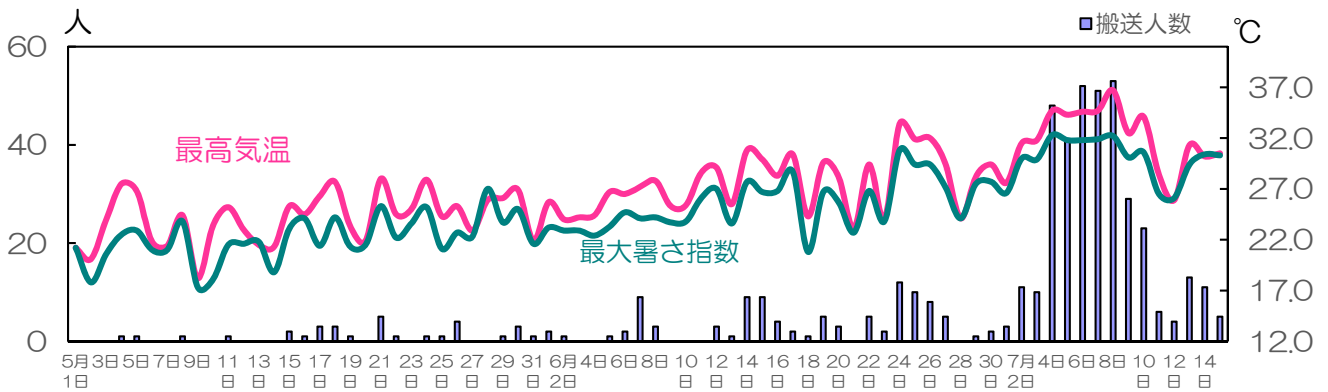


熱中症情報

<搬送数>

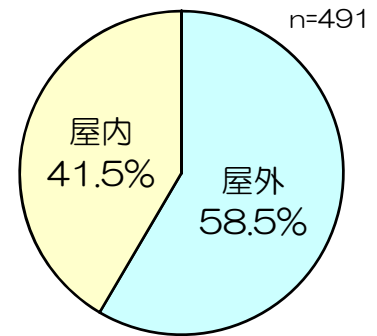
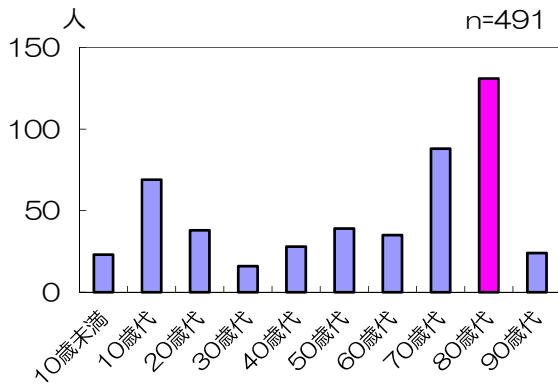
令和6年4月29日～7月15日までの搬送数（消防局データを使用）は、計491人（4月0人、5月31人、6月100人、7月360人）でした。7月4～8日は、最高気温が34.3℃以上、暑さ指数が31.8℃以上で、搬送数が連日40人以上/日と急増しました。7月8日は、最高気温36.7℃の猛暑日となり、搬送数が53人と、期間内で最多を記録しました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

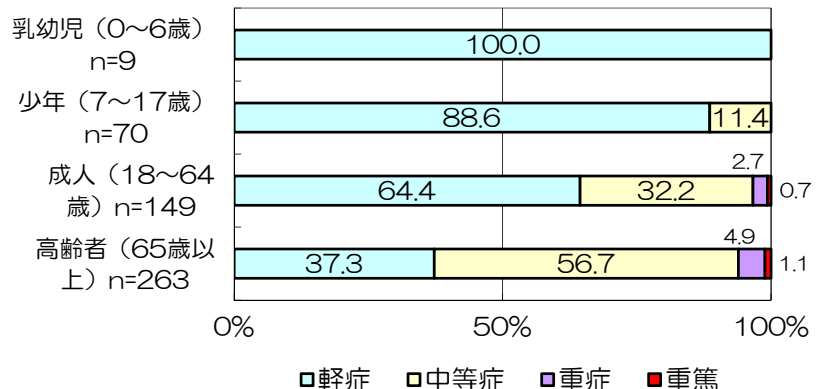
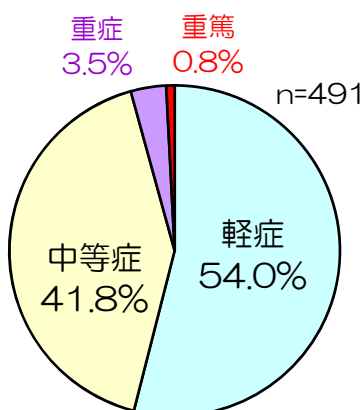


暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が131人(26.7%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外58.5%、屋内41.5%で、次が70歳代で88人(17.9%)でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度* > 軽症54.0%、中等症41.8%、重症3.5%、重篤0.8%でした。高齢者で中等症以上の割合が62.7%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義 (横浜市熱中症情報)

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。